

米国フロリダ州 フィンガーライムが柑橘類産業を助ける可能性

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月21日

オーストラリア原産のHLB耐性ライム品種がフロリダの柑橘類産業を助ける可能性がある

真珠のような粒から一般に「柑橘類のキャビア」として知られているフィンガーライム(*Citrus australasica*)は、オーストラリア原産の小さくて細長い果実である。その果汁の詰まった独特の粒は酸味と強い香りがあり、グルメ料理で人気が高まっている。

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)柑橘類研究教育センター(CREC)園芸科学部の助教授であるマンジュル・ダット博士は、オーストラリアとカリフォルニア州での栽培に成功したフィンガーライムをフロリダ州の柑橘類産業に適応させる研究を主導している。

フロリダ州の新しい特産作物

フィンガーライムの最も有望な特性の1つは、カンキツグリーンング病(黄龍病、HLB)に対する天然の耐性である。この病害は、ミカンキジラミによって広がり、柑橘類の果樹を弱らせ、葉の黄変や未熟果の落果を引き起こす。商業的に栽培される多くの柑橘類品種とは異なり、フィンガーライムはHLBに対する回復力を示し、この病害による損失を挽回しようとしている生産者にとって貴重な選択枝となっている。

フィンガーライムの耐病性は、生産者が柑橘類の生産に再投資することを後押しするだけでなく、作物の多様化も可能にする可能性が有る。さらに、フィンガーライムは量り売りではなく個別に販売できるため、従来の柑橘類と比較してより高い利益を生み出す可能性がある。フロリダ州は、その亜熱帯気候がフィンガーライムの栽培条件を完璧に満たしており、この柑橘類の生産に理想的な場所となっている。

育種の取り組み

ダット博士は、15年近くにわたり、フロリダ州の気候に適した優れたフィンガーライム品種の開発を主導してきた。同博士の研究による大きな進歩の1つは、より高い気温でも色を保持する赤い果肉の品種である。これは、マイアミで栽培されたフィンガーライムが、そこよりも涼しい地域で栽培されたものと同じ鮮やかな見た目になることを意味する。

また、従来の育種技術による種なしフィンガーライムの育成にも焦点を当てている。有名なタンゴマンダリン等、いくつかの種なし品種はすでに実用化されて成果を上げている。

研究者達はまた、高いトンネルを使用してフロリダ州の北部でも育つ耐寒性品種についても調べている。トンネルは、生育期間を延長し、極端な天候から果樹を保護することで栽培方法を変える可能性がある。

ダット博士は「植物の健康と適応力にとって、適切な台木の選択は不可欠である」と述べている。異なる種類の台木は、耐病性や生育条件に影響を与える可能性がある。

この研究のもう一つの目標は、とげの少ないフィンガーライムの木を育種し、収穫プロセスを簡素化することである。さらに、ポストハーベスト技術を強化するための研究も進行中であり、品質を維持しながら貯蔵寿命を延ばすため、梱包、貯蔵及び輸送の方法に焦点を当てている。

UF/IFASの助教授であるタイ・ルー博士は、廃棄物の削減と市場性の向上を目指す中で、フィンガーライムの細胞壁が貯蔵寿命にどのように影響するかに関する研究を強調し、「フィンガーライムの鮮度、食感、風味を維持し、市場での魅力を高めるためには、貯蔵条件の最適化が不可欠である」と述べた。

継続的な研究と進歩により、フィンガーライムがフロリダ州の柑橘類生産者にとって持続可能な作物になることが期待されている。

執筆者: カルラ・エスピノーザ・グティエレス